

基本目標②：福祉・生活

施策 2：高齢者がいきいきと暮せるまちづくり

施策目標

高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って安心して暮らしています。

現状・課題

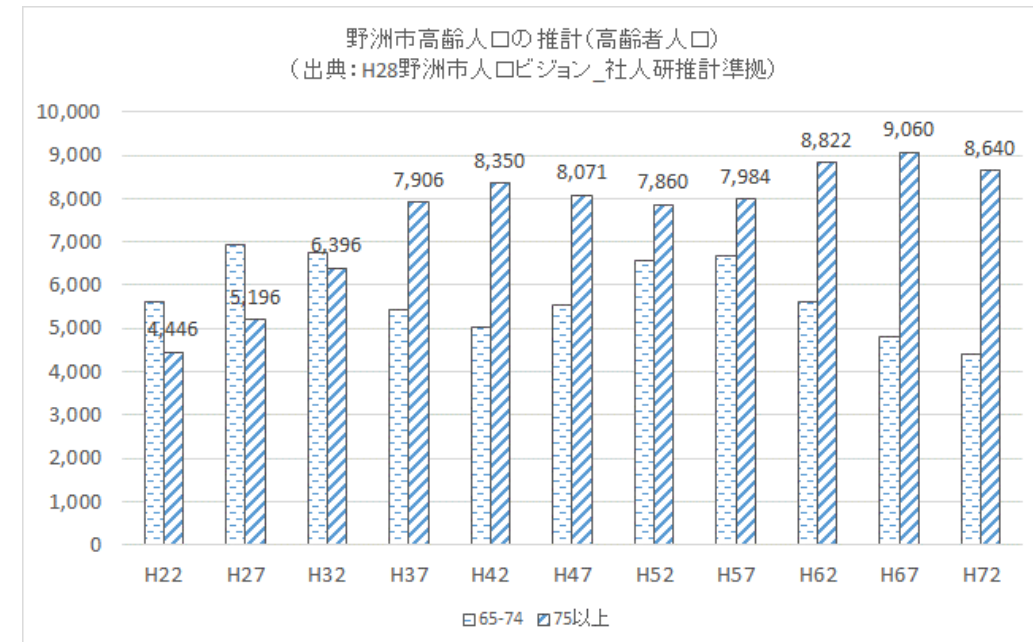
2025 年に団塊の世代の人がすべて後期高齢者になります。認知症をはじめ介護や医療を必要とする人の増加が見込まれることから、行政、地域、市民がそれぞれの役割を高め、お互いに連携して取り組んでいく必要があります。

近年特に、高齢者の単身や夫婦のみの世帯が増加しています。こういったなか、地域との関係を十分築けず社会的に孤立してしまうことで、日常生活上の問題や健康面の不安を有する高齢者が増えてきているとみられます。また、経済的に困窮した高齢者や複合的な生活課題を持つ高齢者が増えており、高齢者への虐待も様々な態様で増加しています。

一方で、高齢者の体力はこの 20 年間で 5 歳から 10 歳ほど若返ったといわれており、元気な高齢者も増えています。これまで培ってきた能力や知識、経験を生かして、地域や社会で活躍したいと考えている高齢者も多くおられ、そういった高齢者の力で活発に運営されている地域活動も多くあります。その他、高齢者の居場所である地域のサロン活動も市内全域で充実・拡大しているほか、高齢者が自主的に筋力体操などを行うグループ活動も増えています。

自宅での療養や介護を支援する在宅サービスは一定充実してきていますが、市民のなかには、入院や施設介護を望む意識が根強い状況です。特別養護老人ホームのほか、在宅療養支援のための老人保健施設や病院のベッド数は市内で一定充足されていることから、今後は高齢者や家族がより安心できる在宅サービスの充実とその利用をさらに促していく必要があります。

■ 高齢者人口の推移と推計



取組方針

- ① 健康づくり活動と社会参加の促進
高齢者が健康づくりや介護予防に取り組むきっかけや環境づくりを行うとともに、地域活動やボランティア活動に参加し活躍できるよう後押しをすることで、生きがいを持って健康に暮らす高齢者を増やします。
- ② 高齢者の暮らしを地域で支えるまちづくり
身近な地域で相談や支援を行う体制を充実させるとともに、市民が行う多様な福祉活動とまちづくり活動が相互に作用し結びついて発展していくように促すことで、温かい地域のなかで安心して暮らせる高齢者を増やします。
- ③ 市民ニーズに適った介護サービスの提供と適正化の推進
市民ニーズに適った在宅サービスを整えるとともに、在宅療養についての市民理解を高めることで、介護が必要な高齢者が安心して在宅で療養できる介護保険をつくります。

主な取組

「いきいき百歳体操」等の介護予防活動の促進、ボランティア活動や高齢者相互支援活動の推進、認知症予防の啓発や早期診断対策の強化、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施、等

地域包括支援センターの機能強化と各中学校圏域への設置、小地域ふれあいサロンなどの市民によるつながり・見守り活動のまちづくり活動と一体的に促進すること、認知症高齢者を市民や地域で見守るしくみの充実、等

小規模多機能型居宅介護等の地域密着型サービスや 24 時間訪問看護・介護の体制の強化推進、在宅医療・介護連携の推進、等

指標

指標	現状値	目標値 (5 年後)	(指標のそのものや現状値、目標値等の解説)
① いきいき百歳体操の団体数・参加者数	53 団体・1,250 人	65 団体・1,400 人	
② 小地域ふれあいサロンの数・実施回数	84 サロン・1,153 回	90 サロン・1,250 回	
③ 要介護 3 以上に対する養護ベッド数の充足率	18.2%	30%	
④ 小規模多機能型居宅介護 (看護付き含む) の施設数	1 施設	4 施設	

関連する市の計画

- 高齢者福祉計画・介護保険事業計画
- 地域福祉計画
- ほほえみやす 21 健康プラン